

平成28年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【愛知県海部郡蟹江町】	
平成28年度に実施した取組の内容及び成果と課題	
1. 事業の実施体制	一般社団法人かにえ子ども日本語の会プレスクール指導者 4名 小学校就学前説明会通訳等の外部協力者 6名 プレスクール事業指導者養成講座修了生協力者 2名 プレスクール指導者養成講座 当団体講師2名 外部講師 2名
2. 具体の取組内容	6月 蟹江町子育て推進課、各保育所所長、当団体との打ち合わせ プレスクール(就学前日本語教育)対象児の決定 7月～2月 各保育所でのプレスクール 新蟹江保育所 年長児対象「プレスクール」年中児対象「プレ・プレスクール」14回 対象児3人 蟹江西保育所 年長児対象「プレスクール」年中児対象「プレ・プレスクール」14回 対象児2人 蟹江南保育所 年中児対象「プレ・プレスクール」8回 対象児3人 当団体オリジナル教材「たんけんたいシリーズ」にて指導 ・年長児はひらがなが読めること、自分の名前が書けることを目標とした。 ・保護者の母語に興味を持つ機会、宿題に親子で取り組む機会を促した。 ・年中児はひらがなカード、読み聞かせなどで文字に親しみを持つ機会を作った。 9月～12月 プレスクール指導者養成講座 全10回開催 受講生 4人 ・外国人児童に対する日本語指導の基礎 ・保育所でのプレスクール、小学校の日本語学級の見学 ・他地域で語学相談員として活動している外国人保護者の講義 ・模擬授業研修 10月 各小学校就学児健康診断立ち合い ・小学校に、外国人年長児の情報を伝えた。 ・外国人保護者に、小学校で引き続き当団体の支援を受けられることなどを伝えた。 3月 小学校就学前説明会開催 ・入学準備用品、学校生活等様々な事柄を通訳をつけて行った。 ・プレスクール対象児以外の外国人年長児の家庭も対象とした。

3. 成果と課題

・プレスクール

対象児は全14回の指導で、ひらがなが読みたい、読めること、自分の名前が書けること、日常の語彙を増やすこと、数を30程まで数えられること、学校における集団生活でのルール等を身につけることという目標を達成できた。

当団体のオリジナル教材の宿題を保護者といっしょに取り組んでもらうことで、学校生活において重要な保護者の協力を促すことができた。

子育て推進課、小学校との連携により、入学前に外国人児童の家庭情報などを共有することができた。また、保育所に通っていない外国人転入児の保育所入所をすすめ、プレスクール指導をすることができた。

小学校入学説明会では、それぞれの保護者の母語の通訳をつけ、入学準備を細部まで理解してもらうことができ、不安を解消することができた。また、子育て推進課、教育課との連携により、入学直前転入の外国人家庭にも参加してもらうことができ、入学前に保護者と小学校をつなげることに貢献できた。

・プレスクール指導者養成講座

受講生4人は子どもの支援経験者で、熱心であった。当団体が今年度開催した外国人小・中学生のための夏休み・冬休み宿題教室に、ボランティアとして指導に協力してもらい、講座で得た知識を即、実践してもらうことができた。来年度からは、プレスクール事業の指導者として協力してもらう予定である。地域の人材が指導者となっていくことで、今後、地域との連携をより深めることができる。

・プレスクール

プレプレスクール(年中児対象)では、1時間いすに座ってられない、集団では指示がなかなか通らないなどの困り感のある子どももいる。プレスクールの少人数・個別指導により、課題の見極めをして、保育所との連携、また小学校での指導に良い形でつなげていくことが望まれる。

保育所に入所していない外国人児童のいる家庭に、入所を促す働きかけが継続して必要である。

小学校入学直前の転入児について、子育て推進課、教育課と連携して、小学校入学説明会への参加を促すことも継続して必要である。

・プレスクール指導者養成講座

地域の指導者を育成することで、当団体の活動を広く知ってもらうことができる。今後も当団体が地域のコーディネーター的な役割を果たし、蟹江町が外国人住民と地域住民との多文化共生社会構築のモデルとなっていくことに貢献していきたい。

4. その他(今後の取組等)

町内小中学校では、今年度、11人の外国人児童生徒の転入があったことから、蟹江町の外国人住民数の推移は、今後とも増加が予想される。プレスクール事業は継続して行っていくことが不可欠である。

保育所に入所していない外国人未就学児の把握に、各課と連携して取り組んでいきたい。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。)